



つうしん ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 | 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2025 年 5 月 第 37 号

ひらやましょうがっこう みな
平山小学校の皆さんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

ナミビア通信 1 号でも紹介しましたが、ナミビアには世界遺産のナミブ砂漠があります。ここは、ナミビアの中でも特に有名な場所といえます。しかし、実はナミビアにはもう 1 つ世界遺産があるのです。それが、「トゥウェイフルフォンテン (Twyfelfontein)」と呼ばれる岩絵線画群(岩に描かれた絵)です。先日、ここを訪れる機会があったので、今日はそこで見たものや学んだことを紹介したいと思います。

世界遺産「トゥウェイフルフォンテン」

①どこにあるの？

トゥウェイフルフォンテンは、ナミビアの北西部にあります。首都ウィントフックから車で 5 時間半ほどのコリハスという町からグラベルロード(舗装されていない道)で 100km ほど西へ進むと到着します。この 100km の間にいくつかの観光スポットがあるため、途中で寄り道しながら向かうことができます。ナミビア通信 34 号で紹介した「ダマラリビングミュージアム」もこのトゥウェイフルフォンテンに向かう途中で立ち寄った場所の一つです。



少し話が脱線しますが、もう 1 つ途中で立ち寄った場所が「ペトリファイドフォレスト (Petrefied forest)」と呼ばれる所で、「Petrefy」は「石化する」という意味をもつ英単語です。つまり、ペトリファイドフォレストとは「石化された森」です。森といっても、木がたくさんあるわけではありません。ゴンドワナ大陸の分裂後、洪水によってここに流された木々が長い年月、砂などで覆われていたため空気に触れずに腐ることなく残り石化したそうです。見た目は木なのに触れてみると完全に石で、自然の力でこんな現象が起こることにも驚きました。また、ここではナミビアの国章にも描かれている「ウェルウィッチア」という花をたくさん見ることができます。この花は乾燥したナミビアの地で 1000 年以上生き続けます。生涯で 2 枚しか葉を出さず、その 2 枚が裂けて多くの葉があるように見えているのだそうです。



↑石化した木↑



ウェルウィッチア↑ (左:雄花、右:雌花)



↑受粉を助ける虫

②どんなところ？

実はトゥウェイフルフォンテンはナミビア初の世界遺産です。ナミブ砂漠が世界自然遺産に登録されたのは2013年ですが、トゥウェイフルフォンテンは2007年に世界文化遺産に登録されました。狩猟民族であるサン族（ナミビアではよくブッシュマンと呼ばれる）が岩に描いた200箇所2500点を超える絵（ロックアート）が残されています。絵が描かれている岩はサンストーンと呼ばれるやわらかめの岩で、そこにクォーツという硬い石を使って彫って描いていたそうです。これが、とても広い範囲に渡って残されているので、観光客が効率よく見どころを回れるように、いくつかのルートが作られています。



↑デイビットの家

↑温泉

1864年ごろまで20年ほど、南アフリカからきたデイビット・レビンという人物がこのあたりに住んでいて、この近くにあった温泉を「トゥウェイフルフォンテン」と呼んでいたことから、この名前がついたそうです。「トゥウェイフル (Twyfel)」とは南アフリカやナミビアなどで話されている現地語のアフリカーンス語で「疑わしい」という意味で、「フォンテン (fontein)」は「泉」という意味をさします。

③どんな絵が描かれているの？

※岩絵の本当の意味を特定することは難しく、これらは様々な情報に基づいた推測にすぎません。

これらの岩絵の背景には、シャーマニズムという宗教があります。シャーマンという霊や神と交信する能力のある人が、霊や神と交信して予言や占いをするような宗教だそうです。霊と交信している状況を、意識が別の場所にあるという意味で、動物に変身した人の絵で表したという説もあるようです。絵の多くが動物で、200頭以上のキリン、100頭以上のサイ、ダチョウ、インパラ、ゾウなどが描かれています。



↑これはライオンですが、しっぽが人の手のように見えます。これはライオンに変身したシャーマンだと考えられているそうです。



↑動物の足跡と共に人の足跡が描かれています。シャーマンが動物に変身した瞬間を表しているとの説もあります。



↑キリンの頭の上に5本の突起があり、これは人の足の5本指を表していると考えられています。



↑動物の足跡と人の足跡があります。また右下に見える目玉のような模様は、シャーマンが見る目の中の像を表すとの説や、そこに水があることを表すとの説など諸説あります。

同じブッシュマンでも生活の地域によって岩絵の描き方が違うそうです。私が住むウサコス近くの「スピッツコッペ」の岩絵はオカラという赤土と動物の血を混ぜたもので描かれたそうです。そのため、彫った岩絵と違って赤色をしています。



↑スピッツコッペの岩絵